



## 平成30年度「静岡県専修学校各種学校 バレーボール大会」が開催されました



### 2CP保育実習(施設実習)を終えて

子ども心理学科 2年 成瀬 菜実

今回、「生活介護事業所障害者デイサービス」で、障害を持った子どもたちや成人の方々の過ごしている施設で実習させていただきました。

一人ひとりへの支援や援助の方法、関わり方を丁寧に教えていただきました。子どもたちは様々な方法で自分のやってもらいたいこと、思いなどを表現して伝えてくれようとしています。そのひとつひとつを汲み取り、受け止めるように努力しました。子どもが自分を表現できるように援助していくことが大切だと学びました。子ども一人ひとりの個性や特徴をしっかりと理解するためには、一対一の関わりが長い時間必要であり、小さな変化にも気付けるように職員の方は支援していました。

私も子どもたちや利用者さんの心に寄り添い、支えていけるような保育士になりたいと思いました。そのためには、周りへの気配りや距離感、思いやりを大切に、実習で学んだことを活かして、今後の勉強を深めていきたいと思います。

### 秋季スポーツ大会を開催しました♪ 学生最後のスポーツ大会



子ども心理学科 3年 青木 達寛

私にとって今回のスポーツ大会が学生最後のスポーツ大会でした。今まで優勝したことがなかったので、今回「何としても優勝したい!」と、やる気に満ち溢れていました。特にバレーボール経験者の私は、バレーボールには一段と熱が入りました。絶対に負けたくない、楽しく行うことも大切だけれども今回ばかりは真剣勝負で勝敗にこだわりたい気持ちでした。

試合相手はどのチームも経験者や運動神経の良い人達が出て、簡単には勝たせてもらえません。苦戦はしましたが、みんなで協力して1試合目は勝つことができました。2・3試合目の試合もみんなでボールを繋げることで、ラストまで楽しく行うことができました。

私たちのチームは、1・2・3年生合同チームでヘトヘトになりながらも一生懸命やることで、先輩、後輩関係なしに喜びや悔しさを共に分かち合うことができました。そして初めて優勝することができました。仲間と力を合わせ精一杯打ち込むことで得られたこの達成感と爽快感を社会人になった時にも忘れず、頑張っていきます。



### 連携プレーで掴んだ一勝

女子バレー部 主将 総合福祉学科2年 大木 明日香

私たち女子バレー部は、2年生2人・1年生5人と人数が少ない中、大会に出場しました。2年生は第3期実習があったため、なかなか部員全員での練習ができない状況でした。そのような中、1年生は毎回練習に参加し、いつ私たちが合流してもスムーズに練習ができるように経験者中心に練習に励んでくれていました。大会前、最後の練習では、動き、役割の確認を行い、ポジションごと話し合ったりしている姿がありました。試合に対しての意気込みが一人ひとりから感じられ、団結して試合に臨む態勢が整いました。

大会当日、試合に対しての緊張、会場の雰囲気にもまれた部分があり、思い通りの試合がなかなかできませんでしたが、しかし、失敗しても励み合うこと、声を掛け合うことを忘れずに挑みました。その結果、一勝することができました。このチームで試合に出場できて本当によかったです。

理事長校長先生はじめ諸先生方、学生の皆さんから応援を頂いたことに心から感謝申し上げます。来年度は今年度よりも良い結果が残せるように協力して練習に励んでいきたいと思っています。

### 県専バレーボール大会を終えて

男子バレー部 主将 総合福祉学科 3年 竹下 柚紀

今回のバレーボール大会参加に関し、1年次から参加し続けてきた自分達にとって、集大成となる大会でした。最上級生となり、先輩達が抜けた穴を埋めていく今年度は、バレー経験の浅い自分達にとって、不安ばかりが募るスタートでした。

新体制として活動していく中で、足りなかった部員数も1年生の加入により活気付き、積極的に中身の濃い練習が行えるようになっていきました。そして練習を重ねるうちに、在校生の入部にも繋がり、自信となり、より一層団結力を養っている実感を抱くことができました。

大会は、女子が1勝、男子は結果が振るわず、悔しさは残りますが、それ以上に一つの目標に向かって努力する大切さ、最後までやり遂げる重要性、様々な気持ちを分かち合うことができる親友を得ることができ、周りに感謝する気持ちが芽生えました。

きっとこの経験は来年度のバレーボール大会でも活かされることと思います。

応援して下さいました校長先生を始め、諸先生方、学生の方々、本当にありがとうございました。

女子バレー部 監督 原木 伴美

バレー部の皆さん!大会お疲れ様でした。結果は少し残念でしたが、試合中や試合の合間に色々話しながら試行錯誤をして取り組む姿は、とても誇らしかったです。大会を通じて、それぞれが“何か”を感じ取ったと思います。その“何か”を、学校生活や社会に出てからも活かしていってほしいと思っています。来年は、リベンジできるように頑張っていきましょう!!今年度は、スポーツ大会でバレーボールを実施しました。そこではバレー部以外の人で活躍している人がたくさんいました。そのあなた!来年は是非一緒にバレーの大会に出てみませんか?もちろん、バレー初心者でもやってみようと思っている人も大歓迎です!!一緒に良い汗流しましょう!

最後になりましたが、応援してくださった校長先生をはじめ諸先生方、学生の皆さん。応援、ありがとうございました。

男子バレー部 監督 南條 琴未

10月15日に公益社団法人静岡県職業教育振興会主催の平成30年度バレーボール大会に参加しました。バレー部は男子8名、女子7名でそのほとんどが初心者というチームでしたが、大会に向け4月から練習を頑張ってきました。男子は接戦でしたが、惜しくも負けてしまい、女子は交流戦にて一勝することができました。他のどこのチームよりも元気があり、楽しそうにプレーしている姿が印象的でした。

来年度に向けてまた頑張っていきたいと思いますので、今後とも応援よろしくお願ひ致します。

追伸:新入部員を随時募集しておりますので、興味のある学生さんは気軽に練習に参加してください。



経験からの学びを促進する「ものの見方」を持つ

進路室長 橋野 幸男

最近、㈱リクルートマネジメントソリューションズ・主任研究員 桑原正義氏のレポート『VUCA時代のリーダーシップ教育と新人・若手の生かし方・育て方』などを読みました。その中から、印象に残った部分を紹介いたします。

同レポートでは、「新人・若手育成の鍵」の一つとして、「経験からの学びを促進する『ものの見方』を育てる」が挙げられています。同社では、新人・若手の成長に影響を及ぼす要因を特定するため、数百人以上にインタビューを実施しました。その結果、「やる気」や「能力」ではなく、「ものの見方」が成長に大きく影響していることがわかりました。次の表が、その代表的なものの抜粋です。

A： 困難な場面で陥りやすい「ものの見方」	
失敗回避	失敗したらどうしよう。失敗するくらいなら、無理してやることはないのでは
マイナス着眼	こんなこともできないなんて、自分はダメなのでは。向いていないのでは
意味限定	何のためにやる必要があるのだろうか。もっと意味のある仕事ならがんばれるのに
否定の恐れ	相手や周囲にどう思われるかが気になる。ダメな人だと思われたくない
思い込み	自分の考えでよいだろう、合っているだろう。これでいいはずだ
抱え込み	周りに迷惑はかけられない。自分で何とかしなければいけない

B： 成果・成長につながりやすい「ものの見方」	
経験学習	たとえ上手くいかなくても、経験から学び 次に生かせば大丈夫だ。失敗からも学べる
プラス着眼	できているところもあるはずだ。少しずつ進んでいけば、結果は出るはずだ
意味づけ	この仕事にも意味があるはずだ。ここを乗り越えられれば、〇〇 が得られる
素直に出す	わからないことは素直に聞いたほうがよい。本音や気持ちを素直に伝えたほうがよい
視野拡大	自分の考えや やり方が正しいとは限らない。いろいろな選択肢を考えよう
支援を得る	役割と責任を果たすためには、周囲の力を借りることも必要だ

人は誰でも困難な環境では、表・Aのような「自分基準で、ネガティブな見方」に陥りやすいものです。例えば、上司・先輩への相談場面では、本当は聞きたいことがあるのに、「こんなことを聞いたら、ダメな人と思われるかも」という『否定の恐れ』が行動を阻害しがちです。一方、その恐れを抑え、思い切って『素直に出す』ことができれば、信頼・成長や成果

につながっていきます。ところが、今の若者、「ミレニアルズ」(1980年以降に生まれ、デジタル・ネイティブで新たな価値観を持つ世代)は、その育った環境から、困難(前例がなく曖昧で複雑な状況)を克服する経験が不足しており、表・Bのような成果・成長につながりやすい「ものの見方」を十分に身に付けていません。したがって、行動後のリフレクション(振り返り)においては、結果や行動レベルの振り返りにとどまらず、うまくいかない本質的な要因である「ものの見方」への気付きを促し、いかに成果・成長につながる「ものの見方」を育てるかが鍵を握ります。以上のような内容です。

さて、今回、このような「ものの見方」を紹介したのは、就職活動準備に入っている皆さん(2020.3卒)はこれから多くの未経験な困難に遭遇するだろうからです。例えば、「短期インターンシップに参加し“グループワーク”を経験しました、自分よりずっとデキル人がいました」一。さて、あなたが抱く感想は、次のどちらでしょう。

- ①「いろいろ努力しているんだろうな。彼のよいところをパクって、参考にしよう」
- ②「彼は、もともと頭がいいんだ。かなわないや」

上の表で言えば、①はBの「ものの見方」に、そして②はAに近いでしょう。②のように能力を固定的なものとして捉えると、えてして表中の『否定の恐れ』のように周りからの評価ばかりが気になり、失敗すると行動自体を中止してしまいがちです。皆さんには、①・Bのように、能力は成長するもの、失敗してもそこから学び、次はうまくいくように工夫しよう、と前向きに進んでほしいものです。たとえ志望先が不本意な結果に終わったときでも、「よし、これから」と切り替えられるようになってください。

11月の行事

- 1日(木) ORT臨地実習Ⅱ(～30日)
- 2 TW・CW第4期実習(～17日)
- 3日(土) 文化の日
- 9日(金) ペン字検定
- 12日(月) 2CP保育実習Ⅱ(保育所) 事前研修(～14日)
- 13日(火) メディックファーストエイド(～15日)
- 15日(木) J検CBT
- 17日(土) オープンキャンパス13:15～
- 22日(木) 学校学科・入試説明会17:00～
- 23日(金) 勤労感謝の日
- 26日(月) 3TW第6期実習(～12/28)
- E 海外研修修学旅行:アメリカ(～12/1)



平成31年度学生募集

入学選考・オープンキャンパス開催

企画広報室 高橋 達也

皆さん、こんにちは。早いもので今年も残すところ2か月となりました。年のはじめに今年の目標を立てた人もいると思いますが、達成できましたか?卒業年度の皆さんは、就職活動や卒業研究など忙しく過ごしているかと思いますが、悔いの残らないよう、残りの学生生活を精一杯過ごしてください。

さて、企画広報室では皆さんの出身高校への訪問など、年間を通じて様々な活動を行っています。みなさんの後輩へ本学の魅力を様々な形でお伝えしていきますので、ぜひ広報室に遊びに来て、学校生活や職場実習の話などいろいろ聞かせてください。皆さんの経験談は高校生たちの進路選びにもきっと役立つはずですので、皆さんの母校を訪問した際には先生方や後輩たちにお伝えしてきます!

また、10月1日より出願受付が開始となりました。来年度学生募集の入学選考も第一回を終え、みなさんの後輩が続々と決定しています。今後、ステップアップレッスンなどで入学予定の高校生が来校する機会が増えますが、校内で高校生を見かけた際は温かく声をかけてあげてください。みなさんの声がかきっと励みになると思います。皆さんも経験したことがあると思いますが、高校生にとって「先輩と触れあえる」というのは、とても嬉しいことです。人の印象は第一印象で決まると言われています。皆さんの明るい笑顔と挨拶で学校への好感度も倍増すること間違いなしです。元気のよいあいさつで学校を盛り上げていきましょう!

平成31年度学生募集 入学願書受付中

第2回入学選考:12月15日(土) 最終選考3月29日(金)  
特待生選考、自己推薦選考、一般選考、社会人選考、留学生選考  
出願〆切 12月14日(金)15:00

- ◇オープンキャンパス :11月17日(土)13:15～  
個別にも対応 12月 8日(土)13:15～  
以降随時開催
- ◆学校学科・入試説明会:11月22日(木)17:00～  
個別にも対応 12月 3日(月)17:00～  
以降随時開催

